

第4学年 単元別学習内容一覧

上巻

◎ わくわく算数学習					
目 標				指導時数・時期	
○ 10 や 100 を単位とする数の除法について、図、式、ことばなどを関連づけて考えたり筋道立てて説明しあったりすることを通して相対的な見方にもとづく除法についての理解を深めるとともに、学びを深めあう算数学習の進め方のよさに気づき今後の学習にいかそうとする態度を養う。				1 時間	
				2 学期制：4 月上旬	
				3 学期制：4 月上旬	
評 価					
(知) ・算数学習を進める手順を知り、ことばや図や式を用いて考え説明する仕方や話し合いのよさを理解する。					
(思) ・ことばや図などを適切に用いてわかりやすく説明することができる。					
(態) ・学習の進め方に関心をもち、話し合い活動や発表に進んで取り組もうとする。学習を進める手順や話し合いの仕方などを知り、これからの学習にいかそうとする。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
(課題設定)	1	6～9	○10 や 100 を単位にした 1 位数でわるわり算の計算の仕方を考える学習を通して、自分で考えるときの方法や説明の仕方、話し合いのやり方など算数学習の進め方を知る。 ○自分で考え、みんなで話し合う算数学習の進め方のよさに気づく。	・数の相対的な見方による 10 や 100 を単位にしたわり算 ・学習の進め方、ノートのかき方	(思判表) $120 \div 3$ や $600 \div 3$ の計算の仕方を考えたり、ことばや図などを用いてわかりやすく順序立てて説明したりしている。《発言・観察》 (知技)10 や 100 を単位にしたわり算の計算ができる。《観察・ノート》 (態度)学習を進める手順や話し合いの仕方などを知り、これからの学習にいかそうとする。《ノート》

1 角とその大きさ					
目 標				指導時数・時期	
○ 角について、分度器を用いてその大きさを測ったり、ある大きさの角をかいたりする方法を理解し、いろいろな角の大きさやその和や差について考えたり説明したりすることを通して、角の理解を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。				8 時間 2 学期制：4 月上旬～4 月中旬 3 学期制：4 月上旬～4 月中旬	
評 価					
(知) ・角の大きさを回転の大きさとして捉えることができる。 ・角の大きさの単位（度（°））について知り、角の大きさを測定することができる。 (思) ・図形の角の大きさに着目し、角の大きさを表現したり、図形の考察にいかしたりしている。 (態) ・角の大きさについて、数学的に表現・処理したことをふり返り、多面的にとらえ検討してよりよいものを求めようとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんぴ (課題設定)	—	140	○既習事項の理解を確かめる。	・3 年「三角形」	
	1	10～11 12～13	○まるく開く扇を作り、それを利用して回転の大きさを角の大きさととらえ、単元の課題をつかむ。	・まるく開く扇づくりによる角（回転角）の学習への動機づけ	(態度)扇を開いていろいろな大きさの角がつくれることに関心を持ち、活動に取り組んでいる。《観察・発言》 (知技)動的に角をつくる活動を通して、回転してできる形を角ととらえることができる。《観察・発言》
	2	14～15	○角度の単位について知り、分度器を使って角の大きさを測定する。	・角の大きさの単位と分度器を使った測定、直角＝90° 《°，角，角度》	(態度)角の大きさを数値化することに関心を持ち、分度器の使い方を身につけようとしている。《観察》 (知技)分度器を使って角の大きさを正しく測ることができる。《観察・発言》
	3	16～17	○辺の長さが短い場合や角の向きが反対の場合に、工夫して角の大きさを測ることができる。 ○正三角形、二等辺三角形、三角定規などの角の大きさを知る。	・辺を伸ばすなどの角の大きさの測定の工夫 ・正三角形や三角定規などの角の大きさ	(思判表)角の大きさを測るのに、辺の長さを伸ばしたり、角の向きにあわせて目盛りをよんだりしている。《観察・ノート》 (知技)正三角形や三角定規の角の大きさについて理解している。《観察・発言》
	4	18～19	○1 組の三角定規を組み合わせてできる角の大きさを考え、角の大きさの計算ができることを理解する。	・角の大きさの加減、三角定規を使ったいろいろな大きさの角づくり	(知技)三角定規を組み合わせてできる角の大きさを求めることができる。《発言・ノート》 (知技)角の大きさのたし算やひき算ができる。《ノート》
	5	20～21	○半回転や一回転の角の大きさについて理解し、180° より大きい角を工夫して測ったり、その求め方を説明したりすることができる。	・180° をこえる角の大きさの測定	(思判表)180° や 360° の角の大きさをもとに、180° をこえる角の大きさの測り方を考えたり説明したりしている。《観察・発言》

	6	22	○分度器を使った角のかき方を理解し、いろいろな角をかくことができる。	・30° や 200° などの角の作図	(知技)分度器を使って、大きさのきまった角をかくことができる。 《ノート》 (思判表)180° や 360° の角の大きさをもとに、180° をこえる角のかき方を考えたり説明したりしている。《観察・発言》
	7	23	○角のかき方を使って三角形を作図することができる。	・角の作図による三角形の作図	(思判表)三角形のかき方を考えたり説明したりしている。《ノート・発言》
学びのまとめ	8	24～25	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり	

2 折れ線グラフ					
目 標				指導時数・時期	
○ 身のまわりの事象について、折れ線グラフを用いたデータの整理の仕方を理解し、それをもとに事象の特徴を考察したり説明したりすることを通して、統計的に問題解決する力を育むとともにその方法を生活や学習に活用しようとする態度を養う。				6時間 2学期制：4月下旬～5月上旬 3学期制：4月下旬～5月上旬	
評 価					
(知)・折れ線グラフを用いると、伴って変わる2つの数量の変化の様子をわかりやすく表すことができることを理解している。 (思)・折れ線グラフの特徴とその用い方を理解している。 (態)・変化の様子を折れ線グラフに表して考察している。 (能)・表や折れ線グラフに表現することで視覚的に分かりやすくなるよさに気づき、生活や学習に活用しようとしていたりしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんぴ	—	140	○既習事項の理解を確かめる。	・3年「表とグラフ」	
(課題設定)	1	26	○気温の変化の表し方を考えることを通して、単元の課題をつかむ。	・1日の気温変化の考察による折れ線グラフの動機づけ	(態度)棒グラフと比較して、折れ線グラフの特徴をとらえようとしている。《発言・観察》
①変わり方を表すグラフ		27	○折れ線グラフの意味を理解し、よむことができる。	・折れ線グラフのよみ方 《折れ線グラフ》	(知技)折れ線グラフの点を横軸・縦軸の目盛りからよむことができる。《発言・ノート》
	2	28～29	○折れ線グラフの線の傾きから変化の様子がよみとれることを理解する。	・折れ線グラフの変わり方とその大小(グラフの傾き)	(思判表)線の傾きに注目して、変化の様子を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 (知技)線の傾きから、変化の上下や大小をとらえることができる。《発言・ノート》
②折れ線グラフのかき方	3	30～31	○折れ線グラフをかくことができる。	・折れ線グラフのかき方	(知技)表から折れ線グラフをつくることができる。《観察・ノート》
	4	32～33	○変化の様子がわかりやすくなるように、一部を省略する波線を使って折れ線グラフをかくことができる。	・波線による目盛りの一部を省略したときの折れ線グラフのかき方 ・身のまわりの折れ線グラフ	(思判表)変化の様子がわかりやすくなるように目盛りの大きさを考えて、折れ線グラフをつくっている。《観察・ノート》 (態度)身のまわりでどんな折れ線グラフが使われているかに関心を持ち、進んでみつけようとしている。《観察》
③2つのことがらを表すグラフ	5	34～35	○折れ線グラフや棒グラフを組み合わせたグラフをよむことができる。	・2つの折れ線グラフ、ばうグラフと折れ線グラフを組み合わせたグラフのよみ方	(思判表)2つのグラフを関連づけて、どんなことがわかるかを考えたり説明したりしている。《発言・ノート》
学びのまとめ	6	36～37	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり、活用問題	

3 1けたでわるわり算の筆算					
目 標				指導時数・時期	
○ 1けたでわるわり算の筆算について、その仕方を考えたり説明したりすることを通して、(2,3位数)÷(1位数)の筆算や簡単な(2位数)÷(1位数)の暗算ができるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。				10時間 2学期制：5月上旬～5月下旬 3学期制：5月上旬～5月下旬	
評 価					
(知)・除数が1位数で被除数が2位数や3位数の場合の計算が、基本的な計算を基にしてできることを理解している。また、その筆算の仕方について理解している。 ・除法について、(被除数)＝(除数)×(商)＋(余り)の関係を理解している。 (思)・除数が1位数で被除数が2位数や3位数の場合の除法の計算の仕方を考えている。 (態)・既習の計算を活かして、答えを見積もりながら主体的に筆算や暗算の計算の仕方を考えようとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんぴ	—	141	○既習事項の理解を確かめる。	・3年「わり算」「あまりのあるわり算」	
(課題設定)	1	38	○(2位数)÷(1位数)の立式をして、	・色紙72枚を3人で分けるときの	(思判表)72÷3の計算の仕方を10の

①(2けた)÷(1けた)の筆算		39	具体物を使ってその計算の仕方を考える。 ○わり算の筆算の仕方を考えていくという単元の課題をつかむ。	1人の枚数の求め方の考察 ・(2位数)÷(1位数)の筆算の学習の動機づけ 《商》	束や1を使って考えたり説明したりしている。《発言・観察》
	2	40～41	○具体物を使った計算の仕方をもとに、(2位数)÷(1位数)の筆算の仕方を考える。	・72÷3のような(2位数)÷(1位数)の筆算	(態度)筆算の形式を知り、具体物の操作をもとにその仕方を考えようとしている。《観察・ノート》 (知技)(2位数)÷(1位数)の筆算の仕方を理解し、筆算で計算することができる。《ノート》
	3	42	○余りのある(2位数)÷(1位数)を筆算で計算することができる。	・(2位数)÷(1位数)で余りのある筆算、答えの確かめ(わる数×商+余り=わられる数)	(思判表)余りのある(2位数)÷(1位数)の筆算の仕方を考えたり説明したりしている。《ノート・発言》 (知技)余りのある(2位数)÷(1位数)を筆算で計算したり、その答えを確かめたりすることができる。《ノート》
	4	43	○(2位数)÷(1位数)で、位ごとにわり切れる場合や一の位の商に0が立つ場合の筆算の仕方を理解することができる。	・(2位数)÷(1位数)で十の位がわり切れる場合や一の位の商に0が立つ筆算	(知技)十の位がわり切れる場合や商に0が立つ筆算の仕方を理解している。《ノート・観察》
●練習	5	44	○学習内容を確実に身につける。	・練習	
②(3けた)÷(1けた)の筆算	6	45	○既習の筆算の仕方をもとに、(3位数)÷(1位数)の筆算の仕方を考えることができる。	・(3位数)÷(1位数)で商が3桁になる筆算	(態度)(2位数)÷(1位数)の筆算の仕方をもとに、(3位数)÷(1位数)の筆算の仕方を考えようとしている。《観察・ノート》
	7	46～47	○(3位数)÷(1位数)で、商に空位がある場合の筆算の仕方を理解することができる。	・(3位数)÷(1位数)で商に0がたつ場合や商が2桁になる場合の筆算	(知技)商に空位がある場合の筆算の仕方を理解している。《ノート・観察》
●練習	8	48	○学習内容を確実に身につける。	・練習	
③暗算	9	49	○簡単な(2位数)÷(1位数)を暗算で計算することができる。	・(2位数)÷(1位数)で商が2桁になる暗算	(知技)簡単な(2位数)÷(1位数)を暗算で計算することができる。《観察・ノート》
学びのまとめ	10	50～51	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり ・コラム「外国のわり算の筆算のしかた」	

＊ ふく習					
小単元	時	ページ	目標	学習内容	おもな評価規準
	1	52～53	○既習事項の確認と持続	・復習	

4 一億をこえる数					
目 標				指導時数・時期	
○ 億や兆をこえる数について、既習の数の表し方にもとづいてその仕組みを考えたり説明したりすることを通して、数の大きさや十進位取り記数法についての理解を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。				8時間 2学期制：5月下旬～6月上旬 3学期制：5月下旬～6月上旬	
評 価					
(知)・億、兆の単位について知り、十進位取り記数法についての理解を深めている。 ・×(3位数)の筆算ができる。					
(思)・数のまとまりに着目し、大きな数の大きさの比べ方や表し方を統合的に捉えるとともに、それらを日常生活に生かしている。 ・×(2位数)の筆算の考えをもとに、×(3位数)の筆算の仕方を考えることができる。					
(態)・整数の表し方について、数学的に表現・処理したことをふり返り、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとしていたりしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんび	—	141	○既習事項の理解を確かめる。	・3年「一万をこえる数」	
(課題設定)	1	54	○人口を表す数字から、一億をこえる大きな数について調べていこうという単元の課題をつかむ。	・世界の人口による一億をこえる数の学習の動機づけ	(態度)一億までの数についての知識をもとに、一億をこえる数について考えようとしている。《観察・発言》
①億と兆		55	○十億の位までの数について、よみ方、かき方、仕組みを理解する。	・一億をこえる数の仕組み、かき方 《一億・十億の位》	(知技)十億の位までの数のよみ方やかき方を理解している。《観察・ノート》
	2	56	○数の仕組みについて理解を深め、一兆をこえる数について知る。	・一兆をこえる数の仕組み、かき方 《一兆、百億～千兆の位》	(思判表)万の位の仕組みと、億や兆の位の仕組みが同じであることに気づいている。《観察・発言》 (知技)4桁ごとに「万」「億」「兆」と区切って大きな数をよむことができる。《発言・ノート》

	3	57	○数の加法的な見方や相対的な見方から数を多面的にとらえる。 ○一億をこえる数の数系列を理解する。	・大きな数の数の構成（数の加法的・相対的な見方）	(態度)数の加法的な見方や相対的な見方を働かせて、数を多面的にとらえようとしている。《観察・発言》 (知技)数直線上の大きな数をよむことができる。《ノート》
	4	58～59	○整数を10倍や100倍したり、10や100でわったりしたときの仕組みを考えることができる。	・大きな数を、10倍や100倍したり、10や100でわったりすることについての理解	(思判表)位に着目して、10倍、100倍したときや、10、100でわったときの数がどうなるかを考えたり説明したりしている。《発言・ノート》
	5	60	○どんな整数も0から9までの数字を使って表すことができることを理解する。	・大きな数の仕組み(十進位取り記数法)	(思判表)どんな整数も0から9までの数字で表されていることに気づいている。《発言・観察》 (知技)条件にあう大きな数をつくることができる。《ノート》
②大きな数の計算	6	61	○数の相対的な大きさの見方をもとに、億や兆の位までの数の加法・減法ができる。 ○ $100 \times 100 = 10,000$ 、 $10,000 \times 100 = 1,000,000$ であることを使って、大きな数の乗法ができる。	・数の相対的な見方による加法・減法と乗法、 $100 \times 100 = 10,000$ 、 $10,000 \times 100 = 1,000,000$ 《和、差、積》	(思判表)数のまとまりに着目して、計算の仕方を考えたり説明したりしている。《発言・観察》 (知技)手際よく大きな数の計算をすることができる。《観察・ノート》
	7	62	○既習の $\times(2\text{位数})$ の筆算の仕方をもとにして、 $(3\text{位数}) \times (3\text{位数})$ を筆算で計算することができる。	・ $(3\text{桁}) \times (3\text{桁})$ の筆算	(知技) $(3\text{位数}) \times (3\text{位数})$ の筆算の仕方を理解している。《ノート》
学びのまとめ	8	63～65	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり、活用問題	

5 垂直・平行と四角形					
目 標				指導時数・時期	
○ 2 直線の位置関係について、その交わり方に着目して垂直・平行の意味を理解し、四角形を平行な辺の組の数で分類してその特徴を調べることを通して、四角形についての理解を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。				14 時間 2 学期制：6 月上旬～6 月下旬 3 学期制：6 月上旬～6 月下旬	
評 価					
(知) ・直線の平行や垂直の関係について理解している。 ・平行四辺形、ひし形、台形について知っている。 (思) ・図形を構成する要素及びそれらの位置関係に着目し、図形の性質を見いだすとともに、その性質を基に既習の図形を捉え直している。 (態) ・平行四辺形、ひし形、台形などについて、数学的に表現・処理したことをふり返り、多面的にとらえ検討し、生活や学習に活用しようとしていたりしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんぴ	—	142	○既習事項の理解を深める。	・4 年「角とその大きさ」	
(課題設定)	1	66	○道路の交わり方から、直線の交わり方を調べていくという単元の課題をつかむ。	・実際の道路の交わりを観察することによる直線の関係性を調べることへの動機づけ	(態度)直線の交わり方に関心もち、どのようなものがあるか調べようとしている。《観察・発言》
①垂直と平行		67～68	○2 直線の交わり方を調べ、垂直の意味を理解する。	・垂直の定義 《垂直》	(知技)垂直の意味を理解し、ある直線と垂直な直線を見つけることができる。《観察・ノート》
	2	69	○2 直線の交わり方を調べ、平行の意味を理解する。 ○垂直や平行な直線を身のまわりからみつけることができる。	・平行の定義 《平行》 ・身のまわりの垂直・平行	(知技)平行の意味や性質を理解している。《観察・発言》
	3	70～71	○平行な 2 直線の幅を調べ、平行についての理解を深める。	・平行な 2 直線間の距離、長方形の辺の垂直・平行、紙を折ることによる垂直・平行づくり ・コラム「平行に見えるかな？」	(思判表)平行な 2 直線の幅は一定であることに気づいている。《観察・発言》 (知技)長方形の辺における垂直・平行の関係を理解している。《ノート・発言》
②垂直や平行な直線のかき方	4	72～73	○1 組の三角定規を使って、垂直・平行な直線をかく。	・垂直や平行な直線のかき方	(思判表)垂直も平行も、直角を利用してかいていることに気づいている。《発言・観察》 (知技)垂直な直線や平行な直線をかくことができる。《ノート》
	5	74	○垂直や平行な直線のかき方を使って、長方形や正方形をかくことができる。	・長方形や正方形の作図	(思判表)長方形の辺における垂直・平行の關係に着目して、長方形のかき方を考えている。《観察・ノート》 (知技)長方形や正方形を作図することができる。《ノート》
	6	75	○方眼紙上で 2 本の直線の垂直や平行な関係をみつけたり、かいたりする。	・方眼紙上での平行・垂直な直線の弁別と作図	(知技)方眼を利用して、垂直や平行な直線をみつけたり、かいたりすることができる。《ノート・観察》

③四角形	7	76～77	○カードの点をつないでいろいろな四角形をつくり、辺の平行関係に着目して分類する。 ○台形と平行四辺形について知る。	・台形・平行四辺形の定義と弁別 《台形，平行四辺形》 ・身のまわりの台形・平行四辺形さがし	(態度)辺の平行に着目して、いろいろな四角形を仲間分けしようとしている。《観察・発言》 (知技)台形と平行四辺形について知り、弁別することができる。《観察・ノート》
	8	78	○平行四辺形の辺や角の大きさを調べ、その性質について理解する。	・平行四辺形の性質	(思判表)辺や角に着目して、平行四辺形の性質について調べたり説明したりしている。《発言・ノート》
	9	79	○平行四辺形の作図の仕方を考えることができる。	・平行四辺形の作図	(思判表)平行四辺形の定義や性質をもとに、かき方を考えたり説明したりしている。《ノート・発言》 (知技)平行四辺形を作図することができる。《ノート》
	10	80	○ひし形について知り、辺や角の大きさを調べ、その性質やかき方について理解する。	・ひし形の定義と性質、ひし形の作図、身のまわりのひし形 《ひし形》	(思判表)ひし形について知り、辺の平行や角に着目して、その性質について調べたり説明したりしている。《発言・ノート》 (知技)ひし形の性質やかき方を理解している。《発言・ノート》
	11	81	○対角線について知り、平行四辺形やひし形の対角線の交わり方を調べ、その性質を理解する。	・対角線の定義 《対角線》	(思判表)対角線に着目して、いろいろな四角形の性質について調べたり説明したりしている。《発言・ノート》 (知技)対角線の意味を知り、その性質を理解している。《ノート・観察》
	12	82	○ひし形を対角線で切ったときにできる三角形について考え、図形についての理解を深める。	・四角形の三角形分割と構成による考察	(知技)ひし形の定義や対角線の性質をもとに、できた三角形が二等辺三角形や直角三角形であることを理解している。《発言・ノート》
	13	83	○平行四辺形は平面に敷き詰めることができることを知る。 ○敷き詰め模様の中から、いろいろな形を見つけることができる。	・平行四辺形の敷き詰め	(知技)平行四辺形を敷き詰めて模様をつくることができる。《観察》 (態度)平行四辺形以外の四角形も敷き詰められないかを調べようとしている。《発言・ノート》
学びのまとめ	14	84～85	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり ・コラム「どんな四角形でも敷き詰められるかな」「平行な直線からできる角」	

6 小 数					
目 標				指導時数・時期	
○ 小数について、十進位取り記数法にもとづいて 1/1000 の位までの小数の表し方について理解し、大小を比べたり、たし算ひき算のしかたを考えたりすることを通してその理解を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。				9 時間 2 学期制：6 月下旬～7 月上旬 3 学期制：6 月下旬～7 月中旬	
評 価					
(知)・小数が整数と同じ仕組みで表されていることを知るとともに、数の相対的な大きさについての理解を深めている。 ・小数の加法及び減法の計算ができる。					
(思)・端数部分の大きさを小数で表すとき、0.1 の単位をつくったときの考えをもとに、0.01 の単位をつくることを考えている。 ・ $\frac{1}{100}$ の位までの小数の加法及び減法の計算の仕方を、整数の計算の仕方などと関連づけて考えている。					
(態)・小数の桁の範囲が拡張されても同じ十進位取り記数法の仕組みで表されることを学んだことから、さらに小さい小数の位についても考えようとしている。 ・小数も、整数と同じように十進位取り記数法の仕組みで表されているから同じように計算できるというように気づいている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんぴ	—	142	○既習事項の理解を確かめる。	・3 年「小数」	
(課題設定)	1	86	○0.1L を単位として表せないかさの表し方を考えることを通して、単元の課題をつかむ。	・量の端数の表し方による小数の動機づけ ・1/100 の位の小数の表し方	(態度)1L から 0.1L をつくったことをもとに、0.1L を 10 等分して新しい単位となる量をつくりだそうとしている。《発言・観察》
①小数の表し方		87	○0.1L を単位としたときの端数の表し方を通して、1/100 の位までの小数の意味を理解する。		(知技) 1/100 の位までの小数の表し方を理解している。《ノート》
	2	88	○長さや重さなどの量の大きさを、小数を使って表すことを通して、1/1000 の位までの小数の意味を理解する。	・1/1000 の位の小数の表し方	(知技)1/1000 の位までの小数の表し方を理解している。《ノート》

②小数のしくみ	3	89	○1, 0.1, 0.01, 0.001 の相互の関係を調べ、1/1000 の位までの小数の十進数としての仕組みをとらえる。	・1, 0.1, 0.01, 0.001 の相互の関係、 $0.1=1/10$, $0.01=1/100$, $0.001=1/1000$	(思判表)1 と 0.1, 0.01, 0.001 の間の関係を考えたり説明したりしている。《ノート・発言》 (知技)1/1000 の位までの小数の仕組みを理解している。《ノート・観察》
	4	90～91	○小数の加法的な見方や相対的な見方から 1/1000 の位までの小数を多面的にとらえ、整数との統合をはかる。	・小数の加法的・相対的な見方、位の間の関係 《1/10 の位, 1/100 の位, 1/1000 の位, 小数第○位》	(態度)数の加法的な見方や相対的な見方を働かせて、数を多面的にとらえようとしている。《観察・発言》 (知技)整数と小数の十進数としての構成を統合的に理解している。《発言・ノート》
	5	92	○小数を 10 倍や 100 倍したり、10 や 100 でわったりしたときの仕組みを考えることができる。	・小数を、10 倍や 100 倍したり、10 や 100 でわったりすることについての理解	(思判表)位に着目して、10 倍、100 倍したときや、10, 100 でわったときの数がどうなるかを考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 (知技)整数と小数の十進数としての仕組みを統合的に理解している。《発言・ノート》
	6	93	○整数のときと同じように、1/1000 の位までの小数の大小関係を理解することができる。	・小数の大小比較	(思判表)整数の大小比較をもとに、小数の場合にも大きい位から比べていけばよいことに気づいている。《発言・ノート》
③小数のたし算・ひき算	7	94	○小数の見方や仕組みをもとにして、小数の加法や減法の計算の仕方を考えることができる。	・1/100 の位の小数の加法や減法の筆算	(思判表)数の加法的な見方や相対的な見方を働かせて、小数のたし算やひき算の仕方を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 (知技)1/100 の位までの小数のたし算やひき算ができる。《ノート》
	8	95	○いろいろな場合の小数の加法や減法を、筆算で計算することができる。	・1/100 の位の小数の加減で、桁数の違う場合や 0 の処理が必要な場合などの筆算	(知技)1/100 の位までの小数のたし算やひき算で、桁数の違う場合や答えに整数になる場合の筆算ができる。《ノート》
学びのまとめ	9	96～97	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり、活用問題	

活 わくわく算数ひろば					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
●算数ラボ	1	98～99	○ルーローの三角形づくりを通して、身のまわりのものを数学的にとらえてみることのおもしろさを知る。	・円や平行な直線の作図を活用してルーローの三角形を作る活動	(態度)数学的な見方・考え方を働かせて、どのような形かを観察しようとしている。《観察・発言》 (知技)観察してわかったことをもとに、実際にその形をつくることができる。《観察・ノート》
●算数の自由研究	2	100～101	○「ふしぎな輪」といった自由研究に取り組み、見通しをもって考える力や粘り強く取り組む態度を伸ばす。	・輪つなぎとその展開（立体物を展開することの素養）	(態度)不思議な輪づくりに意欲的に取り組み、いろいろな場合を調べようとしている。《観察・作品》 (思判表)見通しをもちながら、輪のつなぎ方を考えている。《観察》

＊ ふく習					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	102～103	○既習事項の確認と持続	・復習	

7 2けたでわるわり算の筆算					
目 標				指導時数・時期	
○ 2けたでわるわり算の筆算について、1けたでわるわり算をもとにその計算の仕方を考えたり説明したりすることを通して、わり算の筆算の仕方やわり算の性質についての理解を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。				11 時間	
				2 学期制：7 月中旬～9 月上旬 3 学期制：9 月上旬～9 月下旬	
評 価					
(知) ・2 位数でわる計算の仕方や除法に関して成り立つ性質がわかり、(何十) でわる計算や 2 位数でわる筆算ができる。					
(思) ・商が 1 位数になる除法をもとに、商が 2 位数になる除法の筆算の仕方を考える。 ・除法に関して成り立つ性質を調べ、それを計算の仕方を考えたり計算の確かめをしたりすることに生かしている。					
(態) ・商が 2 位数になる除法の筆算の仕方を進んで考え出そうとする。 ・除法に関して成り立つ性質を活用して、工夫して計算しようとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準

じゅんぴ	—	142	○既習事項の理解を確かめる。	・4年「1けたでわるわり算の筆算」	
(課題設定)	1	104	○(何十)÷(何十)の立式をして、2桁でわるわり算の仕方を考えていくという単元の課題をつかむ。	・既習のふりかえりと除数が(2位数)のわり算の学習の動機づけ	(思判表)10を単位として、(何十)でわるわり算の仕方を考えたり説明したりしている。《ノート・発言》
①何十でわるわり算		105	○(何十)でわって商が1桁で余りのない計算ができる。	・(何十)でわって商が1桁になるわり算の計算の仕方	(知技)(何十)でわるわり算ができる。《ノート》
	2	106～107	○(何十)でわって商が1桁で余りのある計算ができる。	・(何十)でわって、商が1桁であまりのあるわり算の計算の仕方 ・答えの確かめ(わる数×商+余り=わられる数)	(思判表)10を単位として、何十でわって余りのあるわり算の仕方を考えたり説明したりしている。《ノート・発言》 (知技)わり算の答えの確かめ方を理解している。《発言・ノート》 (知技)(何十)でわって余りのあるわり算ができる。《ノート》
②商が1けたになる筆算	3	108～109	○(2位数)÷(2位数)の立式をして、商の見当づけによる筆算の仕方を理解する。	・(2位数)÷(2位数)による筆算形式の導入	(態度)(2位数)でわるわり算に関心をもち、商の見当のつけ方を身につけようとしている。《観察・ノート》 (知技)(2位数)÷(2位数)の筆算の仕方を理解し、筆算で計算することができる。《観察・ノート》
	4	110	○(3位数)÷(2位数)で、商が1桁になる筆算の仕方を考える。	・(3位数)÷(2位数)で商が1桁になる筆算(仮商の修正なし)	(思判表)(2位数)÷(2位数)の筆算の仕方をもとに、(3位数)÷(2位数)の筆算の仕方を考えたり説明したりしている。《ノート・発言》 (知技)(3位数)÷(2位数)の筆算の仕方を理解し、筆算で計算することができる。《観察・ノート》
	5	111	○仮商の修正のある筆算の仕方を理解する。	・(3位数)÷(2位数)で商が1桁になる筆算(仮商の修正あり)	(思判表)見当つけた商が大きすぎることに気づき、その修正の仕方を考えたり説明したりしている。《ノート・発言》 (知技)仮商の修正の仕方を理解し、筆算で計算することができる。《観察・ノート》
③商が2けた、3けたになる筆算	6	112	○商が2桁になる(3位数)÷(2位数)の筆算を計算することができる。	・(3位数)÷(2位数)で商が2桁になる筆算	(知技)商が2桁になる(3位数)÷(2位数)の筆算の仕方を理解し、筆算で計算することができる。《観察・ノート》
	7	113	○(3位数)÷(2位数)の筆算の仕方をもとに、(4位数)÷(2,3位数)の筆算の仕方を考え、計算することができる。	・(4位数)÷(2位数)、(4位数)÷(3位数)の筆算	(態度)(3位数)÷(2位数)の筆算の仕方をもとに、(4位数)÷(2,3位数)の筆算の仕方を考えようとしている。《観察・ノート》 (思判表)数が大きくなっても、これまでと同じ手順で筆算すればよいことに気づいている。《観察・ノート》
●練習	8	114	○学習内容を確実に身につける。	・練習	
④わり算のせいしつ	9	115	○商が等しいわり算の計算を比べ、わり算に関して成り立つ性質を理解する。	・被除数と除数の両方に同じ数を乗除しても商は変わらないという性質	(思判表)数のまとまりや関係に着目して、商が等しいわけを考えたり説明したりしている。《ノート・発言》 (知技)わり算の性質を理解し、それをいかして計算を工夫することができる。《ノート》
	10	116	○わり算の性質を活用して、工夫して計算する。	・わり算の性質を使った計算の工夫	(思判表)わり算の性質を使った計算の工夫の仕方を考えたり説明したりしている。《ノート・発言》
学びのまとめ	11	117	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり	

8 割 合	
目 標	指導時数・時期
○ 2つの数量の関係について、整数の場合で何倍になるかという割合を用いて比較したり割合から数量を求めたりすることを通して、割合の意味とそれを用いる場面について理解するとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。	4時間 2学期制：9月中旬 3学期制：9月下旬
評 価	
(知) ・簡単な場合について、ある2つの数量の関係と別の2つの数量の関係とを比べる場合に割合を用いる場合があることを知っている。 (思) ・日常の事象における数量の関係に着目し、2つの数量の関係を割合を利用して比べて考察することができる。 (態) ・割合を利用して、2つの数量の関係を比較しようとする。	

小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんぴ	—	143	○既習事項の理解を確かめる。	・3年「何倍でしょう」	
(課題設定)	1	118	○動物の成長度合いを考えることを通して、単元の課題をつかむ。	・2つの数量関係を比べることによる割合の学習の動機づけ	(態度)数量の関係を図に表して考えようとしている。《観察・ノート》
①割合		119	○ある2つの数量の関係と別の2つの数量の関係とを比べる場合に割合を用いる場合があることを知る。	・2つの数量の割合を比較すること(割合の第1用法) 《割合》	(知技)割合について知り、割合を使って数量の関係が比較できることを理解している。《発言・ノート》
	2	120～121	○何倍かの関係にある2量のうちの一方がわからない場面で、その量を求めることができる。	・割合の第2用法・第3用法	(思判表)数量の関係を図に表して考えたり説明したりしている。《発言・観察》
②何倍になるかを考えて	3	122	○ $\square \times a \times b = c$ の場面で、順に考えて解く方法と、何倍になるかに着目してまとめて考えて解く方法の2通りの考え方がわかる。	・ $\square \times a \times b = c$ の場面で \square を求めるのに、順に考えたりまとめて考えたりして解く問題	(思判表)「 \square のa倍のb倍がc」という数量の関係を図に表すことを通して、「 \square の(a×b)倍がc」という関係に気づいている。《発言・ノート》
	4	123	○ $\square \times a \times b = c$ の場面で、何倍になるかに着目してまとめて考える方法で解くことができる。	・ $\square \times a \times b = c$ の場面で \square を求めるのに、まとめて考えて解く問題	(思判表)オペレータに着目し、「 \square のa倍のb倍」を「 \square の(a×b)倍」として考えている。《発言・ノート》

9 式と計算の順じよ					
目 標				指導時数・時期	
○ ()のある式や四則の混じった式について、計算の順序を理解し、いろいろな式の意味や計算のしかたを考えたり説明したりすることを通して、式と計算のきまりについての理解を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。				8時間 2学期制：9月下旬～10月上旬 3学期制：10月上旬～10月中旬	
評 価					
(知)・四則の混合した式や () を用いた式について理解し、正しく計算することができる。 ・四則に関して成り立つ性質についての理解を深めている。					
(思)・交換法則、結合法則、分配法則を用いて計算を簡単に行うことを考えている。 ・式をよみ、具体的な場面や思考の筋道を考えている。					
(態)・式の扱いに関心をもち、() を使って1つの式に表したり、具体的に即して式をよみとろうとしたりする。					
小単元	時	ページ	目 標		
じゅんぴ	—	143	○既習事項の理解を深める。	・2年「しきと計算」 ・2年「九九のきまり」 ・3年「式と計算」	
(課題設定)	1	124	○生活場面を式に表すことで、単元の課題をつかむ。	・ $120+90\times 3$ のような場面による計算の順序についての動機づけ	(態度)四則混合式の計算の順序に関心をもち、()の使い方などを身につけようとしている《観察・発言》
①式と計算の順じよ		125	○ことばの式をもとに、()を使って1つの式に表したり、その計算の順序を考えたりすることができる。	・式の表し方と計算の順序	(知技)3要素2段階の問題を、()を使って1つの式に表し、計算することができる。《ノート》
	2	126	○四則混合の計算を1つの式に表したとき、乗除を先に計算することや乗除の()は省いてよいことを理解する。	・四則混合式での乗除先行についての理解	(知技)四則混合の式では乗除を先に計算することを理解している。《ノート》
	3	127	○四則混合の式から計算の順序をとらえ、正しく計算することができる。	・四則混合式の計算の順序ときまりのまとめ	(思判表)四則混合式の計算の順序を考えたり説明したりしている。《ノート・発言》 (知技)式と計算の順序を理解している。《ノート》
②計算のきまり	4	128～129	○まとめて考える考えと別々に考える考えを統合して、分配法則のきまりに気づくことができる。	・分配法則を中心とした整数の計算のきまりのまとめ	(態度)()を使ったり乗除先行をもとにしたりして、いろいろな式を立てようとしている。《ノート・観察》 (知技)()を使った計算のきまりを理解し、交換、結合、分配の3つの計算法則について理解している。《観察・発言》
	5	130～131	○交換、結合、分配法則などの計算のきまりを活用し、工夫して計算することができる。	・交換法則、結合法則、分配法則を使った計算の工夫	(思判表)計算のきまりを使って計算の工夫の仕方を考えたり説明したりしている。《ノート・発言》 (知技)計算のきまりをいかして、工夫して計算することができる。《ノート》
③式のよみ方	6	132	○いろいろな式の表す意味を図と結びつけて考え、そう考えた理由を図を使って説明することができる。	・式のよみ	(思判表)数や演算に着目し、式の表す意味を具体的に即して考えたり説明したりしている。《ノート・発言》

④計算の間の関係	7	133	○乗法と除法，加法と減法の相互関係をとらえて，計算に利用することができる。	・加減，乗除の相互関係（□を使った式）	(態度)演算の関係に着目し，□を使った式の□を求める計算の仕方を考えようとしている。《観察・発言》 (知技)加法と減法，乗法と除法の関係を理解している。《ノート》
学びのまとめ	8	134～135	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり，活用問題	

● そろばん					
目 標				指導時数・時期	
○ そろばんについて，そろばんを用いた小数や大きな数の表し方を理解し，その加減の計算を通して，そろばんの構造やよさに気づくとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。				1 時間	
評 価				2 学期制：10 月中旬	
(知) ・そろばんによる小数や大きな数の表し方，加法及び減法の計算の仕方を知り，そろばんを用いて小数や大きな数の簡単な加法及び減法の計算ができる。				3 学期制：10 月中旬	
(思) ・整数の加減をもとに，小数の加減の計算の仕方を考えることができる。					
(態) ・そろばんについて関心をもち，進んで加減の計算に取り組もうとする。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
○そろばん	1	136～138	○第 3 学年で学習した整数の加減のそろばんの計算処理をもとに，小数の加減や大きな数の計算をする。	・小数や大きい数の入れ方とはらいう方，いろいろな加減計算 ・コラム「そろばんとおつり」「数のたんじょうとそろばん」	(態度)そろばんでの小数や大きい数の表し方に関心をもち，理解しようとしている。《観察》 (知技)小数や大きい数の加減の計算ができる。《観察》 (思判表)たまの操作でいろいろな加減の計算ができるそろばんのよさに気づいている。《観察・発言》

★ 学びのサポート		
ページ	学習内容	指導時数
140～143	・じゅんぴ	
144～157	・もっと練習	
158～171	・算数しりょう集	

※巻末にある「学びのサポート」は，少人数学習や自学自習など柔軟な扱いができるように時間配当をしていません。

すべての児童が一律に学習する必要はありません。

10 面 積

10 面 積					
目 標				指導時数・時期	
○ 長方形や正方形の面積について、その比べ方や表し方を理解し、求め方や公式を考えたり単位を適切に用いて表現したりすることを通して、面積の理解を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。				10 時間 2 学期制：10 月中旬～10 月下旬 3 学期制：10 月中旬～10 月下旬	
評 価					
(知) ・面積の単位（平方センチメートル（ cm^2 ）、平方メートル（ m^2 ）平方キロメートル（ km^2 ））について知っている。 ・正方形及び長方形の面積の計算による求め方について理解している。 (思) ・面積の単位や図形を構成する要素に着目し、図形の面積の求め方を考えるとともに、面積の単位とこれまでに学習した単位との関係を考察している。 (態) ・図形の面積を表すことに関心をもち、長方形や正方形の求積公式を利用して、身のまわりにあるものの面積を求めようとする。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんぴ	—	120	○既習事項の理解を確かめる。	・1 年「大きさをくらべ」 ・2, 3 年「長さ」	
(課題設定)	1	2	○花壇の広さ比べを通して、面積の表し方や求め方について調べていくという単元の課題をつかむ。	・花壇の広さ比べによる面積の求め方や表し方の動機づけ ・面積の直接比較、任意単位の測定 《面積》	(態度)重ねたりしますの数を数えたりして、広さの比べ方を考えようとしている。《観察・発言》 (思判表)面積について知り、それを数値化できることに気づいている。《観察・発言》
①面積		3			
	2	4～5	○面積の単位 cm^2 について知り、 cm^2 を使って面積を表すことができる。 ○ 1cm^2 を単位にして、いろいろな形の面積を求めたり、 4cm^2 の面積を方眼紙上でつくったりする。	・面積の単位 cm^2 を使った面積の表し方、 1cm^2 の大きさ 《 cm^2 、平方センチメートル》	(態度)長さの表し方をもとに、単位正方形を使って面積の表し方を考えようとしている。《発言・観察》 (知技)面積の単位 cm^2 の意味を理解し、それを使って面積を表すことができる。《発言・ノート》
	3	6～7	○長方形や正方形の面積を計算で求める方法を考え、公式を導くことができる。	・長方形と正方形の面積の求め方と求積公式	(思判表)縦と横の長さに着目して、 1cm^2 の正方形が何個分あるかを考えたり説明したりしている。《発言・観察》 (知技)公式を用いて、長方形や正方形の面積を求めることができる。《ノート》
②面積の求め方のくふう	4	8～9	○L 字型などの複合図形を分割したり、補完したりして、その面積を長方形の面積公式を使って求め、説明することができる。	・L 字型の図形の面積のいろいろな求め方	(思判表)複合図形の面積の求め方を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》
③大きな面積	5	10	○面積の単位 m^2 について知り、 m^2 を使って面積を表すことができる。	・ 1m^2 の意味と面積の表し方 《 m^2 、平方メートル》	(知技)面積の単位 m^2 の意味を理解し、辺の長さが m で表された長方形や正方形の面積を求めることができる。《発言・ノート》
	6	11	○長さの単位が異なる場合の長方形の面積を求めることができる。 ○ m^2 と cm^2 の単位間の関係を理解する。	・長さの単位を揃えて面積を求めること ・ m^2 と cm^2 の関係、 $1\text{m}^2=10000\text{cm}^2$	(思判表)面積を求めるには長さの単位をそろえる必要があることに気づいている。《発言・ノート》 (知技) m と cm の関係をもとに、 m^2 と cm^2 の関係を理解している。《観察・ノート》
	7	12	○ 1m^2 の量感をとらえたり、いろいろなもののおよその面積を求めたりすることができる。	・ 1m^2 づくり、身のまわりのおよその面積	(態度) 1m^2 の大きさの量感をとらえようとしている。《観察》 (知技)量感をもとに、面積の見当をつけることができる。《ノート》
	8	13	○面積の単位 km^2 について知り、 km^2 を使って面積を表すことができる。 ○ km^2 と m^2 の単位間の関係を理解する。	・ 1km^2 の意味と面積の表し方、 km^2 と m^2 の関係、 $1\text{km}^2=1000000\text{m}^2$ 《 km^2 、平方キロメートル》	(知技)面積の単位 km^2 の意味を理解し、辺の長さが km で表された長方形や正方形の面積を求めることができる。《発言・ノート》 (知技) km と m の関係をもとに、 km^2 と m^2 の関係を理解している。《観察・ノート》
④面積の単位の関係	9	14～15	○面積の単位 a 、 ha について知り、 a 、 ha を使って面積を表すことができる。 ○ a 、 ha と m^2 の単位間の関係を理解する。	・アールとヘクタール、 $1\text{a}=100\text{m}^2$ 、 $1\text{ha}=10000\text{m}^2$ ・長さの単位の関係をもとにした面積の単位の関係 《 a 、アール、 ha 、ヘクタール》	(知技)面積の単位 a 、 ha について理解している。《ノート》 (思判表)長さの単位の関係をもとに、面積の単位の関係を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》
学びのまとめ	10	16～17	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり、活用問題	

小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	18～19	○既習事項の確認と持続	・復習	

11 がい数とその計算					
目 標				指導時数・時期	
○ 身のまわりの数量の表し方について、目的に応じて概数で表されることがあることを理解し、その表し方を考えたり、概数で計算する仕方を説明したりすることを通して、概数の意味やよさに気づくとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。				8時間 2学期制：11月上旬～11月中旬 3学期制：11月上旬～11月中旬	
評 価					
(知) ・概数が用いられる場合について知っている。 ・四捨五入について知っている。 ・目的に応じて四則計算の結果の見積りを行うことができる。 (思) ・数のしくみにもとづいて、概数の表し方を考えることができる。 ・また、目的に応じた見積もりの仕方を工夫することができる。 (態) ・日常生活で使われている概数を進んで調べ、目的に応じて概数で表したり、概算したりしようとする。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんぴ	—	120	○既習事項の理解を確かめる。	・3年「一万をこえる数」	
(課題設定)	1	20	○およその数で表された場面から概数の意味を知り、単元の課題をつかむ。	・入場者数による概数の学習の動機づけ 《がい数》	(態度)概数で表すことのよさを感じ、その仕方を身につけようとしている。《観察・発言》
①がい数の表し方		21～22	○概数の表し方について調べ、あるきまった位を四捨五入にする方法を理解する。	・四捨五入の意味、四捨五入による概数の表し方 《四捨五入》	(知技)切り捨てと切り上げ、それを組み合わせた四捨五入の仕方を理解している。《観察・ノート》
	2	23	○桁数の違う数を概数にするときには、上から1, 2桁の概数にすることを理解する。	・「ある位まで」や「上から○桁」の概数の表し方	(思判表)四捨五入している位が違うことに気づき、どのように概数にしたかを考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 (知技)上から何桁かの概数にする仕方を理解し、概数で表すことができる。《ノート》
	3	24	○四捨五入の仕方をもとに概数の表す範囲を考え、「以上」「未満」「以下」を使って数の範囲を表すことができる。	・四捨五入される前のもとの数の範囲 《以上, 未満, 以下》	(思判表)四捨五入の仕方をもとに、概数から実際の数量の範囲を考えたり説明したりしている。《ノート・発言》 (知技)以上, 未満, 以下の意味を理解し、それらの用語を使って数の範囲を表すことができる。《ノート》
	4	25	○1 万をこえる数量を棒グラフに表すのに、概数を用いることができる。 ○身のまわりから、使われている概数をみつける。	・概数を活用して棒グラフに表すこと、身のまわりの概数	(思判表)棒グラフに表すという目的にあわせて、概数にする仕方を考えたり説明したりしている。《ノート・発言》 (態度)身のまわりで概数がどのように使われているかに関心をもち、調べようとしている。《観察》
②がい数の計算	5	26～27	○和や差を求める概算の仕方を理解し、見積もることができる。	・和や差を概数で見積もる場面での概算の仕方 《がい算》	(思判表)結果を概数にする方法と概数で計算する方法を比べ、概算すると簡単に結果が見積もれるよさに気づいている。《観察・発言》 (知技)和や差を概算で見積もることができる。《ノート》
	6	28	○積を求める概算の仕方を理解し、見積もることができる。	・積を概数で見積もる場面での概算の仕方	(態度)かけ算の場面での概算の仕方を身につけようとしている。《観察・発言》 (知技)積を概算で見積もることができる。《ノート》
	7	29	○積の概算の仕方をもとに商を求める概算の仕方を考え、見積もることができる。	・商を概数で見積もる場面での概算の仕方	(思判表)積の概算の仕方をもとに、わり算の場面での概算の仕方を考えたり説明したりしている。《ノート・発言》 (知技)商を概算で見積もることができる。《ノート》
学びのまとめ	8	30～31	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり、活用問題	

思 図を使って考えよう					
目 標				指導時数・時期	
○文章題において、問題場面を図に表して解法を考えることを通して、逆思考で順にもどす考え方を活用しようとする態度を養う。				2時間 2学期制：11月中旬 3学期制：11月中旬	
評 価					

(知) ・順にもどして考えて解く方法を理解し、3要素2段階の問題を図に整理し、問題の解決にいかすことができる。 (思) ・3要素2段階の問題を図に整理し、順にもどして解決することができる。 (態) ・順にもどして考えることに関心をもち、進んで問題に取り組もうとする。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	32	○3要素2段階(×, ±)の問題を、「順にもどして」考える思考法で解決する。	・順にもどして解く3要素2段階の問題 ($\square \times a \pm b = c$)	(態度)問題場面を図に整理して考えようとしている。《観察・ノート》 (思判表)順にもどして考えて、加減や乗除の相互関係を利用して問題を解くことができる。《発言・ノート》
	2	33	○3要素2段階(÷, ±)の問題を、「順にもどして」考える思考法で解決する。	・順にもどして解く3要素2段階の問題 ($\square \div a \pm b = c$)	(知技)問題場面を図に整理することができる。《観察・ノート》 (思判表)順にもどして考えて、加減や乗除の相互関係を利用して問題を解くことができる。《発言・ノート》

12 小数のかけ算やわり算					
目 標					指導時数・時期
○ 小数と整数のかけ算やわり算について、整数の計算をもとにしてその計算の仕方を考えたり説明したりすることを通して、(小数)×(整数)、(小数)÷(整数)の計算や筆算ができるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。					16 時間 2 学期制：11 月中旬～12 月中旬 3 学期制：11 月中旬～12 月中旬
評 価					
(知) ・(小数)×(整数) や (小数)÷(整数) の計算の意味やその仕方を理解し、(小数)×(整数) や (小数)÷(整数) の計算ができる。 (思) ・(小数)×(整数) や (小数)÷(整数) の計算の意味やその仕方について、整数の場合をもとにしたり、小数の仕組みや計算のきまりなどをもとにしたりして考えることができる。 (態) ・小数の仕組みや計算のきまりを用いて、(小数)×(整数) や (小数)÷(整数) の計算の仕方を考えようとする。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんぴ	—	121	○既習事項の理解を確かめる。	・3 年、4 年上「小数」 ・4 年上「一億をこえる数」 ・4 年上「式と計算の順じょ」	
(課題設定)	1	34	○(小数)×(整数)の式を立て、単元の課題をつかむ。	・既習のふりかえりと(小数)×(整数)の学習の動機づけ	(態度)(小数)×(整数)の計算の仕方を、小数の意味や図から考えようとしている。《発言・観察》
①小数のかけ算		35	○乗法九九の範囲の(小数)×(整数)の計算の仕方を考えることができる。	・乗法九九の範囲の(小数)×(整数)の計算の仕方	(知技)(小数)×(整数)の計算をすることができる。《ノート》
	2	36	○(小数)×(1 位数)の計算の仕方を考え、計算することができる。	・(小数)×(1 位数)の計算	(思判表) (小数)×(1 位数)の計算の仕方を考えたり説明したりしている。《発言・観察》 (知技)(小数)×(1 位数)の計算の仕方を理解し、計算することができる。《ノート》
	3	37	○整数の筆算の仕方をもとに(小数)×(1 位数)の筆算の仕方を考え、筆算で計算することができる。	・(小数)×(1 位数)の筆算 (末尾 0 の処理を含む)	(態度)整数のかけ算の筆算をもとにして、(小数)×(1 位数)の筆算の仕方を考えようとしている。《発言・ノート》 (知技)(小数)×(1 位数)の筆算の仕方を理解し、筆算で計算することができる。《ノート》
	4	38	○(小数)×(2 位数)の筆算の仕方を考え、筆算で計算することができる。	・(小数)×(2 位数)の筆算	(思判表)乗数が 1 位数のときをもとに、(小数)×(2 位数)の筆算の仕方を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 (知技)(小数)×(2 位数)の筆算の仕方を理解し、筆算で計算することができる。《ノート》
●練習	5	39	○学習内容を確実に身につける。	・練習	
②小数のわり算	6	40～41	○(小数)÷(整数)の式を立て、単元の課題をつかむ。 ○乗法九九の範囲の(小数)÷(整数)の計算の仕方を考えることができる。	・既習のふりかえりと(小数)÷(整数)の学習の動機づけ ・乗法九九の範囲の(小数)÷(整数)の計算の仕方	(態度)(小数)÷(整数)の計算の仕方を、小数の意味や図から考えようとしている。《発言・観察》 (知技)(小数)÷(整数)の計算をすることができる。《ノート》
	7	42	○被除数を整数にするだけではわからない 2÷4 や 0.2÷5 のような場合の計算の仕方を考え、計算することができる。	・2÷4 や 0.2÷5 のような商に 0 を立ててわり進む場合の計算の仕方	(思判表)被除数を除数でわられるようにする方法を考えたり説明したりしている。《発言・観察》

	8	43	○整数の筆算の仕方をもとに(小数)÷(1位数)の筆算の仕方を考え、筆算で計算することができる。	・(小数)÷(1位数)の筆算	(態度)整数のわり算の筆算をもとにして、(小数)÷(1位数)の筆算の仕方を考えようとしている。《発言・ノート》 (知技)(小数)÷(1位数)の筆算の仕方を理解し、筆算で計算することができる。《ノート》
	9	44	○(小数)÷(1位数)で、商が純小数になる場合や商に空位の0がある場合の筆算の仕方を考え、筆算で計算することができる。	・整数部分に商が立たない(小数)÷(1位数)の筆算	(知技)商が純小数になる場合や空位の0がある場合の筆算の仕方を理解し、筆算で計算することができる。《ノート》
	10	45	○(小数)÷(2位数)の筆算の仕方を考え、筆算で計算することができる。	・(1/10の位の小数)÷(2位数)の筆算(商が純小数になるものも含む)	(知技)(小数)÷(2位数)の筆算の仕方を理解し、筆算で計算することができる。《ノート》
	11	46	○(小数)÷(整数)で、商を一の位まで求めて、余りがある場合の計算を考える。	・(小数)÷(整数)で、あまりを求める	(思判表)除数と余りの大小関係をもとに、余りの小数点の位置を考えたり説明したりしている。《ノート・発言》 (知技)(小数)÷(整数)で、商と余りを正しく求めることができる。《ノート》
	12	47	○(整数、小数)÷(1, 2位数)でわり進む場合の筆算の仕方を理解する。	・わり進む場合の筆算	(知技)わり進む場合の筆算の仕方を理解し、正しく計算することができる。《ノート》
	13	48	○(整数、小数)÷(1, 2位数)で、商を適当な位までの概数で表す筆算の仕方を理解する。	・わり進む場合の筆算で、わり切れずに商を概数で表すこと	(思判表)2÷3などのわり算は、どれだけわり進んでもわり切れないことに気づけている。《発言・観察》 (知技)わり進んでわり切れないときの商を概数で表すことができる。《ノート》
●練習	14	49	○学習内容を確実に身につける。	・練習	
③小数倍	15	50～51	○何倍かを表す数が小数になる場合があることを理解する。	・小数倍の意味(割合の第1用法)	(思判表)図や式を使って、2つの数量の割合を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 (知技)割合を小数で求めることができる。《ノート》
学びのまとめ	16	52～53	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり、活用問題	

活 わくわく算数ひろば					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
●見積もりを使って	1	54～55	○100 や 1000 などのまとまりをつくって結果を見積もり、判断することができる。	・グルーピングによる見積もり	(思判表)100 や 1000 のまとまりに着目して、見積もり方を考えたり説明したりしている。《ノート・発言》
●どんな計算になるのかな	2	56～57	○根拠にもとづいて、整数の四則計算の演算決定をすることができる。	・整数の四則計算の演算決定	(思判表)演算決定の根拠を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》

＊ ふく習					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	58～59	○既習事項の確認と持続	・復習	

13 調べ方と整理のしかた					
目 標				指導時数・時期	
○身のまわりの事象について、二次元の表を用いたデータの分類・整理の仕方を理解し、それをもとに事象の特徴を考察したり説明したりすることを通して、統計的に問題解決する力を育むとともにその方法を生活や学習に活用しようとする態度を養う。				4時間 2学期制：1月中旬 3学期制：1月中旬	
評 価					
(知) ・データを2つの観点から分類整理する方法を知っている。 (思) ・目的に応じてデータを集めて分類整理し、問題解決のために考察している。 (態) ・目的に応じてデータを集め、それを分類整理して、特徴を調べようとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんぴ (課題設定)	1	122 60～61 62～63	○既習事項の理解を確かめる。 ○けが調べから、2つの事柄について整理した表を用いて解決しようという単元の課題をつかむ。 ○「1週間のけが調べ」の資料をもとに整理した二次元の表のよみ方を理解する。	・3年「表とグラフ」 ・けが調べによる、二次元の表の学習の動機づけ ・二次元の表のよみ方	(態度)2つの事柄について調べる場合の整理の仕方に関心をもち、進んで取り組もうとしている。《観察・発言》 (知技)2つの事柄を整理した表のよみ方を理解している。《発言・ノート》

	2	64～65	○二次元の表のかき方を理解し、落ちや重なりがないように二次元の表をかく。	・二次元の表のつくり方	(知技)2つの観点で分類・整理した表をつくることのできる。《ノート・観察》
	3	66～67	○二次元の表を考察し、そこから得られたことを、自分たちの生活にいかそうとする。	・ある事象に関する複数の二次元の表をよみとること、身のまわりの事象への活用	(思判表)二次元の表をよみ取り、資料の特徴や傾向を考えたり話しあったりしている。《観察・発言》 (態度)資料をよみ取ってわかったことを、生活にいかそうとしている。《観察・発言》
	4	68～69	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり、活用問題	
学びのまとめ					

思 表を使って考えよう					
目 標				指導時数・時期	
○ 文章題において、情報を二次元の表に分類・整理して解法を考えることを通して、2つの観点の組み合わせを考えて問題を解くことができるようにするとともに、用いた表や見方・考え方を生活や学習に活用しようとする態度を養う。				1 時間 2 学期制：1 月中旬 3 学期制：1 月中旬	
評 価					
(知) ・2つの観点からの情報を二次元の表で整理することを知っている。					
(思) ・2つの観点からの情報を二次元の表に整理できる。					
(態) ・いろいろな情報を、二次元の表などに整理して、考えようとする。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
(課題設定)	1	70～71	○問題に示された条件を、表を用いて2つの観点から分類・整理して解決する。	・二次元の表を使って分類整理して考える問題	(知技)示された条件を二次元の表に分類・整理することができる。《ノート》 (思判表)示された条件を二次元の表に分類・整理したものをよみ取り、問題を解決することができる。《ノート・発言》 (態度) 二次元の表の活用の仕方に関心をもち、学習に取り組んでいる。《観察・発言》

14 分 数					
目 標				指導時数・時期	
○ 分数について、1より大きい分数の表し方や等しい分数について理解し、同分母分数のたし算やひき算の仕方を考えたり説明したりすることを通して、分数についての理解を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。				7 時間 2 学期制：1 月下旬～2 月上旬 3 学期制：1 月下旬～2 月上旬	
評 価					
(知) ・1より大きい分数を仮分数でも帯分数でも表すことができる。 ・簡単な場合について、大きさの等しい分数があることを知っている。 ・同分母の分数の加法及び減法の計算ができる。 (思) ・分数を構成する単位に着目し、大きさの等しい分数を探したり、計算の仕方を考えたりしている。 (態) ・1より小さい分数の意味をもとにして、1より大きい分数の意味について考えようとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんぴ	—	122	○既習事項の理解を確かめる。	・3 年「分数」	
(課題設定)	1	72	○単位とする大きさの分数で測定することを通して、1より大きい分数について調べていくという単元の課題をつかむ。	・長さの分数表現による分数の学習の動機づけ ・分数の分類、真分数と仮分数の意味 《真分数、仮分数》	(態度)1より大きい分数に関心をもち、調べていこうとしている。《観察・発言》 (知技)真分数と仮分数の意味を理解している。《ノート》
①1より大きい分数の表し方		73	○単位分数のいくつ分になるか調べ、真分数や仮分数について理解する。		
	2	74～75	○帯分数について知り、分子を分母でわった商とあまりに着目して、仮分数を整数や帯分数に直す仕方を考える。	・帯分数の意味、仮分数を帯分数になおすこと 《帯分数》	(思判表)仮分数を整数と真分数に分解する仕方を考えたり説明したりしている。《ノート・発言》 (知技)帯分数の意味を理解し、仮分数を整数や帯分数に直すことができる。《ノート》
	3	76～77	○帯分数を仮分数に直す仕方を考え、帯分数を仮分数に直したり、分母の等しい帯分数や仮分数の大小比較をしたりすることができる。	・帯分数を仮分数になおすこと、仮分数や帯分数の大小比較	(思判表)帯分数を仮分数に直す仕方を考えたり説明したりしている。《ノート・発言》 (知技)帯分数を仮分数に直すことができる。《ノート》
②分数のたし算・ひき算	4	78	○同分母分数の加法(和が1より大)や減法(被減数が1より大)の計算をすることができる。	・同分母分数の加法・減法の立式と計算の仕方	(知技)同分母分数の加法(和が1より大)や減法(被減数が1より大)の計算ができる。《ノート》

	5	79	○帯分数を含む同分母分数の加法や減法の仕方を考え、計算することができる。	・帯分数の入った同分母分数の加法・減法	(思判表)帯分数を仮分数に直したり、帯分数を整数と真分数に分解したりして加減計算の仕方を考えたり説明したりしている。《ノート・発言》
③等しい分数	6	80～81	○分母や分子がちがう分数で、大きさの等しいものがあることを、数直線を使って理解する。	・等しい分数の理解	(思判表)1/2 と 2/4 のように、分数には表し方が違っても大きさの等しいものがあることに気づいている。《観察・発言》 (知技)数直線をみて、大きさの等しい分数を見つけることができる。《観察・ノート》
学びのまとめ	7	82～83	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり、活用問題	

＊ ふく習					
小単元	時	ページ	目標	学習内容	おもな評価規準
	1	84～85	○既習事項の確認と持続	・復習	

15 変わり方					
目 標				指導時数・時期	
○ 伴って変わる 2 つの数量について、その変化の様子や関係について調べたり考えたりすることを通して、表やグラフを用いた関数的な見方・考え方を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。				6 時間 2 学期制：2 月上旬～2 月中旬 3 学期制：2 月上旬～2 月中旬	
評 価					
(知)・伴って変わる 2 つの数量の関係を明確にするために、資料を表に表したりグラフを用いて表したりできることを理解している。 (思)・伴って変わる 2 つの数量の関係を表に整理して、変化や対応の特徴を考察している。 (態)・表やグラフ、式に表された変化や対応の特徴をふり返り、それぞれの表し方のよさに気づき、さらに考察を進めようとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんび (課題設定)	1	86	○既習事項の理解を確かめる。	・3 年「□を使った式」	
		87	○長方形づくりを通して、伴って変わる 2 つの数量の関係について調べていくという単元の課題をつかむ。 ○伴って変わる 2 つの数量の関係を調べる表のかき方やよみ方を理解する。	・周りの長さを固定した長方形づくりによる変わり方の学習の動機づけ ・伴って変わる 2 つの数量（長方形の縦と横）の関係を表に整理すること	(態度)長方形づくりを通して縦と横の本数の組にきまりがあることに気づき、それを順序よく表に整理して調べようとしている。《観察・発言》 (知技)伴って変わる 2 つの数量の関係を、順序よく表に整理して調べることができる。《ノート・発言》
	2	88	○伴って変わる 2 つの数量の関係を、○や△を使った式に表すことができる。	・和や差が一定の 2 つの数量の関係を表に整理し、○や△を使って数量の関係を式に表すこと	(知技)伴って変わる 2 つの数量の関係を、○や△を使った式に表すことができる。《ノート》
	3	89	○伴って変わる 2 つの数量の関係を表にかいて調べたり、○や△を使った式に表して調べたりする。	・商が一定の 2 つの数量の関係を表に整理し、○や△を使って数量の関係を式に表すこと	(思判表)伴って変わる 2 つの数量の関係を、図、表、式を使って考えたり説明したりしている。《ノート・発言》
	4	90	○変わり方のきまりを表にかいてみつけ、きまりを使って問題を解決する。	・2 つの数量の関係を表に整理し、変わり方のきまりを見つけて解く問題	(思判表)テーブルと人数の変わり方を表にかいて調べ、きまりを考えたり説明したりしている。《ノート・発言》 (知技)変わり方のきまりを使って、あてはまる場合を求めることができる。《ノート》
	5	91	○水そうの水の量と全体の重さの関係を、折れ線グラフに表したりよんだりする。	・2 つの数量の関係を折れ線グラフに表して考察すること	(知技)水そうの水の量と全体の重さの関係を、折れ線グラフにかくことができる。《ノート・観察》 (思判表)折れ線グラフから変化の様子に気づき、それをもとに解決の仕方を考えたり説明したりしている。《ノート・発言》
学びのまとめ	6	92～93	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり、活用問題	

16 直方体と立方体					
目 標				指導時数・時期	
○ 直方体と立方体について、観察を通してその分類や意味を理解し、その構成要素に着目して性質を調べたり見取図や展開図のかき方を考えたりすることを通して、立体図形の理解を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。				11 時間 2 学期制：2 月中旬～3 月上旬 3 学期制：2 月中旬～3 月上旬	
評 価					

<p>(知) ・直方体や立方体について、見取図や展開図をかいたり、直線や平面の平行・垂直の関係を調べたりして理解する。</p> <p>・平面の上や空間の中でのものの位置の表し方について理解している。</p> <p>(思) ・直方体、立方体を構成する要素(面、辺、頂点)及びそれらの位置関係に着目し、立体図形の平面上での表現や構成の仕方を考察し、図形の性質をとらえることができる。</p> <p>(態) ・直方体や立方体に関心を持ち、進んでそれらの性質を調べようとしたり、それらの形を身のまわりから探そうとしたりする。</p> <p>・ものの位置を数を利用して、的確に表そうとする。</p>					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんぴ	—	123	○既習事項の理解を確かめる。	・2年「はこの形」 ・4年上「垂直・平行と四角形」	
(課題設定)	1	94	○面から箱をつくることを通して、箱の形について調べていくという単元の課題をつかむ。	・箱の面構成による立体図形の学習の動機づけ ・直方体や立方体の面構成、直方体や立方体の定義 《直方体、立方体、平面》	(態度)面の形に着目して、どんな箱ができるかを考えようとしている。《観察・発言》
①直方体と立方体		95～96	○直方体や立方体の意味を理解する。		(知技)直方体、立方体について理解し、面、辺、頂点の数を調べることができる。《発言・ノート》
	2	97	○見取図のかき方を知り、直方体や立方体の見取図をかくことができる。	・直方体や立方体の見取図 《見取図》	(知技)直方体や立方体の見取図をかくことができる。《ノート》
	3	98	○展開図のかき方を知り、直方体や展開図をかくことができる。	・直方体の展開図とその組み立て、辺や頂点の対応 《てん開図》	(思判表)面のつながりに着目して、直方体の展開図のかき方を考えている。《観察・ノート》 (知技)直方体の展開図をかいたり、組み立てたときに重なる辺や頂点を見つげたりすることができる。《ノート・発言》
	4	99	○立方体の展開図をかく。	・立方体の展開図とその組み立て、辺や頂点の対応、コラム「立方体の展開図」	(思判表)立方体の展開図には、いろいろなものがあることに気づいている。《観察・ノート》 (知技)立方体の展開図をかいたり、組み立てたときに重なる辺や頂点を見つげたりすることができる。《ノート・発言》
②面や辺の平行と垂直	5	100	○直方体の面と面の平行や垂直の関係を理解する。	・面と面の平行・垂直、身のまわりの平行・垂直な面	(知技)面と面の平行や垂直の関係を実感的に理解している。《観察・発言》 (態度)身のまわりから、平行や垂直になっている面と面を見つげようとしている。《観察》
	6	101	○直方体の辺と辺の平行や垂直の関係を理解する。	・辺と辺の平行・垂直、身のまわりの平行・垂直な辺	(知技)辺と辺の平行や垂直の関係を実感的に理解している。《観察・発言》 (態度)身のまわりから、平行や垂直になっている辺と辺を見つげようとしている。《観察》
	7	102	○直方体の面と辺の平行や垂直の関係を理解する。	・面と辺の平行・垂直、身のまわりの平行・垂直な面と辺	(知技)面と辺の平行や垂直の関係を実感的に理解している。《観察・発言》 (態度)身のまわりから、平行や垂直になっている面と辺を見つげようとしている。《観察》
●練習	8	103	○学習内容を確実に身につける。	・練習	
③位置の表し方	9	104～105	○平面上にあるものの位置の表し方を理解する。	・2次元座標を使った位置の表し方	(思判表)平面上の位置関係や位置の表し方を考えたり説明したりしている。《観察・発言》 (知技)平面上の位置を、2つの数の組で表すことができる。《ノート》
	10	106	○空間にあるものの位置の表し方を理解する。	・3次元座標を使った位置の表し方	(知技)空間上の位置を、3つの数の組で表すことができる。《ノート》
学びのまとめ	11	107	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり	

活 わくわく算数ひろば					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
思 だれでしょう	1	108～109	○示された条件を表に整理し、順序良く推論して問題を解くことができる。	・条件に合うものを見つける問題	(態度)条件を表に整理し、順序立てて考えていこうとしている。《ノート・発言》 (思判表)表をもとに、あてはまる場合を考えたり説明したりしている。《ノート・発言》

●みらいへのつばさ	2	110～111	○表やグラフなどの資料から必要な情報を選択し、ごみの量についての問題を解決できる。	・表やグラフなどのよみ取り、情報選択（ももかさんのごみの量についてのメモ）	(知技)文章や図から問題を解くのに必要な情報を選択することができる。《発言・ノート》 (思判表)文章や図を関連づけて考えたり説明したりしている。《発言・ノート》
	3	112～113	○ごみを減らすことについて話しあい、課題解決に向けた計画を考える。	・ごみの量を減らす計画を立てる活動	(態度)算数で学んだことをいかして、自身の生活を見直そうとしている。《観察・ノート》

＊ もうすぐ5年生（4年のふく習）

小単元	時	ページ	目標	学習内容	おもな評価規準
	1	114～115	○4年生の学習内容の確認と持続	・復習	
	2	116～117			
	3	118			

★ 学びのサポート

ページ	学習内容	指導時数
120～123	・じゅんぴ	
124～133	・もっと練習	
134～142	・算数しりょう集	

※巻末にある「学びのサポート」は、少人数学習や自学自習など柔軟な扱いができるように時間配当をしていません。

すべての児童が一律に学習する必要はありません。